

犯罪

差別はいかに生まれ、

部族

いかに乗り越えられるのか？

法



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
公益財団法人 北海道文化財団

上演言語

英語・カンナダ語（日本語字幕付き）

構成・演出

シャンカル・ヴェンカテシユワラン

作・出演

アニルドウ・ナーヤル、チャンドラニーナサム

日本語字幕

鶴留聡子

Photo: Takuya Matsumi

白老公演

2022.12/18 (日)

会場 / しらおい創造空間「蔵」





「犯罪部族法」日本公演 (Photo Takuya Matsumi)

差別はいかに生まれ、
いかに乗り越えられるのか？

犯罪部族法

首都ニューデリーから遠く離れた南インドの山奥に劇場を構えてから初めて作った作品「犯罪部族法」(初演2017年)。

ヨーロッパのみならずグローバル・サウスで上演を重ねてきた思い入れのある舞台を、北海道の皆さんと共有できることをとても嬉しく思います。



Photo Gabriela Neeb

1

Photo Manoj Parameswaran

2

3

4

構成・演出 シャンカル・ヴェンカテシュワラン

インド・ケララ州出身。カリカット大学演劇部を首席で卒業後、シンガポールの演劇学校シアター・トレーニング&リサーチ・プログラムで3年間学ぶ。2007年、劇団シアター・ルーツ&ウィングスを旗揚げ。演出作品に「山脈の息子-エレファント・プロジェクト」(08年)、太田省吾「水の駅」(11年)、イブセン「私たち死んだものが目覚めたら」(12年)、京都芸術大学舞台芸術センター共同製作「水の駅」(16年・KYOTO EXPERIMENT 2016 AUTUMN)、同「インディアン・ロープ・トリック」(20年・シアター・コモンズ共催)などがある。09年、国際交流基金と信州大学の招聘で松本で3か月間滞在制作し、まつもと市民芸術劇場で発表。11年、スイスのプロ・ヘルヴェティア文化財団の招聘でチューリッヒに滞在。13年、ノルウェー政府よりイブセン奨学金受賞。16年、ドイツの公立劇場ミュンヘン・フォルクスシアターのレパトリー演出を2シーズン務める。19年、セゾン文化財団のヴィジティング・フェローで来日。演出以外に、ケララ州国際演劇祭芸術監督(15年~16年)、チューリッヒ舞台芸術祭チューリッヒ・テアター・スペクタケール(16年)審査員、パズール舞台芸術祭シアターフェスティバル・パズール(22年)プログラム委員を務める。現在、地元ケララ州アタパディの先住民が多く住む山間部に自ら作った劇場を拠点に活動している。

Photo/ 1 シャンカル・ヴェンカテシュワラン氏

2 3 4 地元住民および世界中のアーティストの協働空間として構える劇場

白老公演

日本語字幕付き

上演言語: 英語・カンナダ語 日本語字幕: 鶴留聡子

12月18日(日) 開演 18:00

※開場は30分前

[会場]

しらおい創造空間「蔵」

白老郡白老町本町1丁目7-5 TEL.0144-85-3101

※JR室蘭線「白老駅」下車

※詳しいアクセスは会場HP(QRコード)をご確認ください。



[料金] 前売当日共通(全席自由・税込)

一般 3,000円 ★学生 1,000円

未就学児入場不可 ★当日学生証をご提示ください

[チケット発売]

●エヌチケ <https://ticket.aserv.jp/nt/>
チケットを公演当日会場受け取りで手数料無料

●ローソンチケット (Lコード:12325)

●チケットぴあ (Pコード:516-241)

[チケット予約]

●しらおい創造空間「蔵」 TEL.0144-85-3101



※演劇団公演チケット受け取りで各種手数料無料。チケット代のみで購入。

作・出演



アニルドゥ・ナーヤル チャンドラ・ニーナサム

1871年~1952年に英国植民地下のインドで実際に施行された「犯罪部族法」は、大道芸人、占い師、行商人などの非定住者やその子孫を「犯罪者」として取り締まるもので、その影響は今日も続いています。

観客の前に現れる二人の俳優は、それぞれの母語である英語とカンナダ語で、自らの出自、記憶、そして社会を語り合う。この彼らの対話は古代から続くカースト制や近代化による社会差別の構造を浮き彫りにしていきます。

【主催】NPO法人しらおい創造空間「蔵」

【助成】公益財団法人北海道文化財団

【お問い合わせ】しらおい創造空間「蔵」

TEL.0144-85-3101



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
公益財団法人 北海道文化財団